

就労継続支援A型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	株式会社SANCYO TANOSHIKA CREATIVE諏訪野町	事業所番号	4012702355
住所	福岡県久留米市諏訪野町1-22 ワカナセントラルプレイス5F	管理者名	今村 康
電話番号	0942-80-6216	対象年度	令和5年度

地域連携活動の概要

<p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none">活動場所: RAPAS(施設外就労先)実施日程: 令和5年4月～実施した生産活動・施設外就労の概要 データ入力作業、データ確認作業・営業レター確認作業 レター封入作業、封緘作業利用者数: 毎日14～20名にて	<p><活動の様子></p> 
<p><目的></p> <p>地域で働くことで相互理解を持って、共に働き共に学ぶことが出来る。施設外での作業に従事することで、環境の変化の経験や外部とのつながりを得ることで、刺激にもつながっていく。</p>	
<p><成果></p> <p>施設内の業務以外にも経験することで、本来施設内ではできない経験につながっていく。 営業レターの確認作業の中で、確認方法の工夫であったり、書き手によって変わる癖などをチェックしていくことで、柔軟な判断を求められる。そのため臨機応変なチェックや判断が苦手な方もチェックに携わることで練習することができています。 データの確認作業などは、責任を持って取り組むことで、失敗や成功が蓄積されて自信につながっていく。 施設内であれば専門的な作業が多いが、従事することが難しい方にも作業に取り組むことで、働いている実感を得ることができる。</p>	 <p>【作業風景】</p>


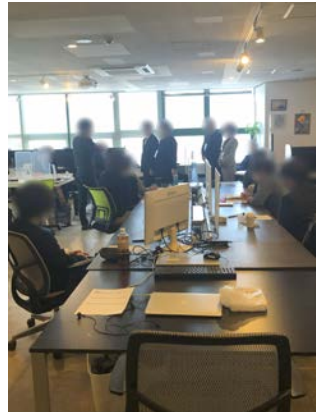
連携先の企業等の意見または評価

<p>連携した結果に対する意見または評価</p> <p>データの入力と、手紙の検品の2つの作業をお願いして1年ほどたちます。ジャンルが違う2つのお仕事ですがどちらもミスもなく丁寧なお仕事に大変満足しております。手紙の検品は少し特殊なお仕事で、判断に迷うこともあるかと思うのですが、しっかりと確認をしながら作業をしてくださっているようで、安心してお仕事をお願いできております。</p>			
<p>今後の連携強化に向けた課題</p> <p>現状課題に感じる点はございません。 弊社が取引先からリストの打ち込みなど細かい仕事をお願いされることが多く、これからデータ入力系のお仕事に更に増える予定ですので、これからもご協力いただけますと幸いです。</p>			
連携先企業名	株式会社RAPAS	担当者名	萩尾

就労継続支援A型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	株式会社SANCYO TANOSHIKA CREATIVE諏訪野町	事業所番号	4012702355
住所	福岡県久留米市諏訪野町1-22 ワカナセントラルプレイス5F	管理者名	今村 康
電話番号	0942-80-6216	対象年度	令和5年度

利用者の知識・能力向上に係る実施概要

<p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none">・日程 令和6年 3月20日(水)10時～11時・場所 TANOSHIKA CREATIVE諏訪野町・講義「身だしなみ・ビジネスマナー研修」・講義者 合同会社 Dweild 代表 宮本孝之 氏・参加者 職員5名 利用者29名	<p><活動の様子></p>  
<p><目的></p> <p>利用者の知識・能力向上に係る実施のねらい: スーツの着こなしやビジネスマナーについて学び、一般就労に向けての知識や能力向上を目指す。</p> <p>利用者にとってのメリット: ビジネスマナーを習得し、利用者の一般就労への意識改革と能力向上</p>	
<p><成果></p> <p>実施した結果得られた成果: 着こなし方やマナーについての情報を支援員・利用者共に学ぶことが出来、表情が相手に与える影響や第一印象の重要性</p> <p>普段からスーツ等を着る機会が少ないため、今後、企業見学・実習や面接にふさわしい服装の定着度をどのようにして高めていくかが課題。</p>	

連携先の企業や事業所等の意見または評価

<p>企業での採用活動の際に意識している視点やポイントを伝えていく中で各利用者がそれぞれに自分自身が周囲からどのように見えているのか、どのように取り組む必要があるのかを意識するきっかけとして捉えていく機会となったと感じた。また支援者も企業側の視点を知ることでTPOに合わせた服装に対する意識を醸成することや現時点での利用者の状況を把握することで今後の支援に活用してもらいたい。日常の活動の中ではあまりフォーマルを意識する機会が少ない状況なので定期的に今回の取り組みを実施する中で利用者の就労への送り出しへの意識づけを行っていくことが必要。また支援者自身が具体的に利用者へ就労への意識の醸成を日々の支援の中に取り入れていくことが課題でもある。</p>	
連携先企業(担当者)	合同会社Dweild(宮本 孝之)

利用者からの意見・評価

<p>参加した利用者からの意見・評価</p> <p>スーツは良いギャップという言葉聞いて「スーツ＝緊張」が「スーツ＝前向きな気持ちになれる物」に変わりました。面接を受けるうえで、清潔感や自分がどこで見られるのかを実践的に学ぶことができた。歩き方に気を付けること、革靴やパンプスの音に気を付ける。スーツについて理解が広まった、普段の生活では着る機会がないので知らないことが沢山あった。面接の時は自分がどう見られているのかを意識することが大事だと思いました。外見で見られるのは恐怖に感じ、一つ一つ難しいことが多いと感じました。ただスーツを着れば良いわけではなく、清潔感・サイズ感・小物の具合、色の合わせ方、歩き方など新しい発見が多かった。等の意見を頂戴いたしました。利用者の方々からは賛否両論ありますが、一般就労やビジネスに限らず必要なことでもありますのでお伝えしていきたいと思っております。</p>
--